



輝いている人

まちの
安全・安心に努めたい

総社市消防団団長で、消防活動や火災予防の普及に功労のあった人を表彰する消防功労者総務大臣賞を受章したのが大月亮さんだ。同表彰の受章は総社市では初めて。「うれしいことです。団員をはじめ、団員の家族や勤務先など、多くの皆様のご理解とご協力のおかげです」と、謙虚に喜びを話す。

昭和36年1月に旧昭和町の消防団に入団。以後、日美分団長や市消防団副団長などを歴任し、平成13年4月から団長を務めている。足かけ50年にわたって消防団活動に携わっている。

平成18年には女性消防団を立ち上げた。女性のソフトさやきめ細やかさなどが団活動に求められると考えたからだ。女性消防団員は現在29人。「行事や訓練など、市民のために、よく

がんばっている」と話す。

総社市消防団は定数1020人に対し現在18分団1014人が所属。団員の確保がむずかしいと全国的にいわれるなか、「総社市も例外ではない。まず定数は確保したい」と話す。

消防団員は火災の消火活動だけでなく、洪水への警戒や行方不明者の捜索など守備範囲は広い。「団員は、地域の実情を最もよく知っている」。万一のときにはこのことが求められ、「地域は地域で守るという気持ちでがんばりたい」と力を込める。

消防団では、各家庭に設置が義務付けられた住宅用火災警報機の普及に積極的に取り組んでいる。「これからも消防団と消防職員が一つに団結して、市民の安全・安心に努めていきたい」と抱負を話した。

消防功労者総務大臣賞を受章した

大月 亮さん(日羽)

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。

乳幼児のしつけ

今まで温かく守られ、たっぷりの愛情を受けて育ってきた子どもが、1歳半ごろになると、少しずつ「自我」が芽生えてきます。親をはじめとした周りの人たちを観察し、「言葉を覚える」「道具を使えるようになる」など、社会のなかで生きていくための基礎を獲得し始めます。

自分でやりたい、したいという気持ちも生まれてきますが、思うようにできず、かんしゃくを起こすこともあります。また、好奇心も旺盛でいたずらも盛んになってきます。このころから親としては、しつけについて悩み始めますが、これも子どもの「自我」が発達している証しとして頭ごなしに押さえ込まず、子どもなりの「したい」という気持ちを受け止めてあげましょう。

そして、生活習慣を身に付けるうえで、「ほめる」ことは特に大切です。親から得た共感や、自分が大切にされているという思いは、子どもの自信となり、育つうえで大きな力になります。危険なことをしたときも、感情的にならず、しっかり「ダメよ」など短い言葉でしかります。その後、しっかり抱いて言い聞かせてあげましょう。

問い合わせ ともども課母子保健係 (☎92-8261)



写真は、乳幼児とその保護者が集う「つどいの広場」の一つ、山手保健センターで開かれている「ちびっこ広場」。スタッフの伊藤家生さん(地頭片山)はしつけについて、「心を育てることなので、寄り添って時間をかけて教えてあげたらどうでしょうか」と話してくれました。

キッズにっこり 家庭応援談

6

栄養委員さん おすすめおやつ

かぼちゃドーナツ

(1個分 166 kcal)



◆材料・数量(約10個分)

- カボチャ……100g
- A……薄力粉=200g、ベーキングパウダー=小さじ1
- 卵……1個
- B……バター=20g、砂糖=40g、スキムミルク=10g
- 薄力粉……適量
- 油……適宜

◆作り方

- ①カボチャはゆでてつぶす。
- ②Aを合わせて振るう。
- ③卵を解きほぐし、①と②とBを混ぜ合わせ、よくこねる。
- ④薄力粉を振っためん板の上で、③を1cmの厚さののぼし、型で抜く。
- ⑤中温の油で揚げる。